1. 総論

【総括判断】「管内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	**一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある**	→

（注）8 年 10 月判断は、前回 8 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

【各項目の判断】

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	**緩やかに持ち直しつつある**	→
雇用情勢	持ち直しのテンポが緩やかになっている	**持ち直しのテンポが緩やかになっている**	→
設備投資	8 年度は減少見込み	**8 年度は減少見込み**	→
企業収益	8 年度は減益見込み	**8 年度は減益見込み**	→
住宅建設	前年を上回っている	**前年を下回っている**	↘
輸出	前年を上回っている	**前年を上回っている**	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や令和 8 年熊本地震等の自然災害、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店販売は、国内中間所得層の節約志向の高まりがみられるものの、国内外のラグジュアリー需要が好調なことから、前年を上回っている。スーパー販売は、物価上昇に伴う消費者の節約志向の高まりがみられるものの、値上げ効果により客単価・売上高は、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、値上げ効果等により前年を上回っている。乗用車販売は、軽乗用車は前年を下回っているものの、普通車、小型車は前年を上回り、全体としては前年を上回っている。ドラッグストア販売は、食料品が好調のほか、新規出店の効果もあり前年を上回っている。家電大型専門店販売は、前年を上回っている。ホームセンター販売は、前年を上回っている。宿泊は、堅調な需要に支えられ、おおむね横ばいとなっている。

（主なヒアリング結果）

- 物価高の影響により国内中間所得層において消費意欲の減退、節約志向が一層深刻化している一方、円安を背景に韓国や台湾からのインバウンド客が増加し、ラグジュアリー等を中心に免税売上げが伸び続けている。（百貨店）
- 来店客数は苦戦しているものの、値上げ効果により客単価及び売上げは増加。米の価格は下がったものの、それ以外の食料品の値上がりが続いており、買上点数は減少。（スーパー）
- 地元球団の優勝セールがシルバーウィーク前半に重なったことと、九州は天候が良い日が多かったことから、足下では来店客数・売上げともに好調に推移。（スーパー）
- 都心部では韓国や台湾からの旅行客を中心にインバウンド需要が継続しているほか、少雨や猛暑の影響により国内の来店客数も増加。客単価及び来店客数の増加により売上げは増加しているものの、買上点数は前年を割り込み、買い控えが続いている。（コンビニエンスストア）
- 3 月末の環境性能割廃止の影響は概ね 4 月で収束しており、足下では昨年見られた受注制限が緩和され、メーカーからの配車が通常に戻ったことから売上げは好調。特に SUV やミニバンの需要が好調。（自動車販売）
- 新規出店の継続や値上げ効果により、売上高は引き続き増加。価格を抑えた商品展開とそれらの販促活動により好調な食品に加え、10 月からの酒税法改正による酒類の駆け込み需要も見られた。（ドラッグストア）
- 客単価の上昇と需要の増加により宿泊稼働率・売上げともに好調。令和 8 年熊本地震の影響により海外客からのキャンセルもあったことから、宿泊客に占める国内客の割合が増加している。（宿泊）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械の自動車は、令和 8 年熊本地震による一時的な影響がみられたものの、国内外向けの需要は堅調であり、横ばい圏内で推移している。はん用・生産用機械は、AI・データセンター関連需要や自動化・省力化投資を背景に、持ち直している。電子部品・デバイスは、一部で需要の回復がみられるなど、緩やかに持ち直している。鉄鋼は、建築資材の需要が伸び悩んでいるものの、AI・データセンター向け需要の回復により、横ばい圏内で推移している。

- 令和 8 年熊本地震に伴う取引先被災による稼働停止や中国向け需要の低迷を背景に、生産は前年を下回っているものの、欧州・北米向け及び国内向け需要は堅調に推移している。（輸送機械）
- 令和 8 年熊本地震に伴う部品供給の停滞により一時的な稼働停止が発生し、計画比で減産となったものの、新型車の販売好調等を背景に国内外向け需要は堅調であり、生産は高水準で推移している。（輸送機械）
- データセンターや AI 関連需要を背景に工作機械の受注が好調なほか、自動化・省人化投資を背景に搬送設備の受注も堅調に推移している。（生産用機械）
- 自動車向けは中国市場の低迷により弱含んでいるものの、半導体・データセンター関連需要やインフラ関連需要、エアコン需要を背景に、生産は全体として堅調に推移している。（情報通信機械）
- 上期は建設業界の人手不足に伴う工期遅延等の影響から受注が低調であったものの、足下では AI・データセンター向け需要の増加を背景に受注は持ち直しつつある。下期は国内外の需要回復に伴い受注・生産量の増加を見込んでいる。（鉄鋼）

■ 雇用情勢 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

有効求人倍率は、おおむね横ばいとなっている。新規求人数は、前年を下回る状況が続いている。企業の人手不足感は続いている。

- 有効求人倍率は、横ばい傾向が続いている。新規求人数は、緩やかに減少している。物価や人件費の高騰が続いている中、中小・零細企業を中心にコストの上昇分を価格転嫁できず、コスト削減の一環として、従業員の採用を抑制している企業もある。（公的機関）
- 人手不足が続く一方で、人件費削減の観点から新規採用や中途採用を抑制している。一人当たりの業務量を減らすため、売り場のスリム化や催事数の見直しに取り組んでいる。（百貨店）
- 人材確保が難しい状況にある。新卒採用者を十分に確保できていないため、中途採用や外国人の採用により補完しているが、人手不足の解消には至っていない。中長期的に見ると、高年齢層の退職者が増加することから、人手不足の深刻化を見込んでいる。（食料品）

■ 設備投資　「8 年度は減少見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 製造業では、「その他の輸送用機械器具」等で増加見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。

○ 非製造業では、「運輸、郵便」等で増加見込みとなっているものの、「電気・ガス・水道」、「金融、保険」等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。

➢ 継続して実施していた大型設備投資の一服に伴い、減少見込み。（非鉄金属）
➢ 前年度に実施した大型投資の反動減により、減少見込み。（電気・ガス・水道）

■ 企業収益　「8 年度は減益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○ 製造業では、「電気機械器具」等で増益見込みとなっているものの、「窯業・土石製品」、「自動車・同附属品」等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

○ 非製造業では、「小売」等で増益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「医療、教育」等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

➢ 設備投資に伴う減価償却費の増加のほか、燃料費、人件費、自社調達部品等の生産コストの上昇により、減益見込み。（自動車・同附属品）
➢ 運輸事業での価格改定効果による収入増のほか、その他事業の進展等による増収を見込むものの、支払利息の増加により減益見込み。（運輸、郵便）

■ 住宅建設　「前年を下回っている」

○ 新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅、給与住宅は増加しているものの、持家、貸家が減少していることから前年を下回っている。

■ 輸出　「前年を上回っている」

○ 輸出（円ベース）は、前年を上回っている。なお、輸入（円ベース）は、前年を上回っている。

（その他項目）

○ 企業の景況感を法人企業景気予測調査（8 年 7-9 月期）の景況判断 BSI でみると、8 年 7-9 月期は「下降」超となっている。先行きについては、8 年 10-12 月期は「上昇」超の見通しとなっている。

3. 各県の総括判断

	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較	総括判断の要点
福岡県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	**一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある**	⇨	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。
佐賀県	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、改善に向けたテンポが緩やかになっている。
長崎県	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨	個人消費は、百貨店・スーパー販売額、専門量販店販売額を中心に回復しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスを中心に緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。